

自然と文化科 シニア自然観察会 活動記録

日時	2017年10月24日(火) 13:30~15:00 曇り	担当者
場所	城陽市 水度神社~鴻巣山	文・写真：西村彦二
備考	城陽市民大学 37名(男26名、女11名) 大阪ガス職員 2名 城陽市教育委員会 5名 自然と文化科リーダー・スタッフ 14名	

昨年は雨天のため中止となった因縁の観察会である。今年も台風 21 号の直後で開催が危ぶまれたが、幸運にも天候と列車ダイヤの乱れも回復し無事に開催できた。しかし、当初 60 名の参加者予定者が 37 名に減ったため、各班 3~4 名という少人数での観察会となった。今回の観察会は、城陽市教育委員会による市民大学の講座の一貫として開催された。鴻巣山は、シイ、サカキ、カナメモチ、イロハモミジ、アカマツなどが多いが、樹種の変化に乏しく観察会としては説明の難しい点もあったが、リーダーの皆さんの周到な準備の甲斐あって、参加者には喜んでいただけたと思う。最後に城陽市からお礼として全員がペットボトルとお菓子を頂戴した。



水度神社に集合



九津見統括の説明



1班：大森リーダー



2班：堀川リーダー



3班：斎藤リーダー



4班：内田リーダー



5班：五家リーダー



6班：水谷リーダー



7班：藤田リーダー



8 班：岩城リーダー



9 班：土井リーダー



10 班：田村リーダー



11 班：杉本リーダー



12 班：牧野リーダー



終了の挨拶



リーダー・スタッフと大阪ガス、城陽市の皆さん



① アカマツ 	山地・尾根筋に多い。樹皮の色が赤みを帯び、葉は赤あか。花は4月頃咲き、マツボクリは翌年の秋に熟す。近年「松枯」により減少。昔はアカマツ林で松茸がよく採れたが今は高麗の花。 科名: マツ科	⑥ エノキ 	大木になる。昔、一里塚に植えられ旅人のランドマークに。また、夏には赤い実をつくり休息場所になったので「夏」という文字ができた。葉はオオムラサキ、ゴマダラチヨウ等の幼虫の食糧。 科名: アサ科	⑪ クログナモチ 	樹皮から「黒もち」がとれる。葉は秋に赤く熟し、1本の果柄に多数が集まって付く。雌雄異株。庭木・公園樹・街路樹としてよく植えられる。 科名: モチノキ科
② アラカシ 	「樺皮」の名で生け垣に利用されることも多い。4〜5月に新葉の展開と同時に開花受粉し、ドングリはその年の秋に成熟する。公園樹、庭園樹に利用されるが、うどんこ病にかかりやすいのが欠点。 科名: ブナ科	⑦ オオモミジ 	葉は端正で美しく5〜9葉の掌状で、イロハに比べてやや大きい。雌雄は細かく左右揃っている。葉裏はイロハのように水平ではなく鈍角に開き、葉の下から下がるように付く。庭木にも多い。 科名: ムクロジ科	⑫ クロマツ 	海岸沿いなどに広く自生。乾燥と湿気に強く、潮風にも抵抗があり防風、防潮林に、また樹形に風格があり庭園や公園樹として植栽される。葉先に熟ると鋭い。マツボクリは翌年の秋に熟し種子を放出。 科名: マツ科
③ イヌマキ 	雌雄異株。コウヤマキに比べて実のボイが付くという説があるが、樹はそれほど多らずにシロロリにも強い。庭木や防風林としてよく植栽される。赤紫色の果実が食べられる。 科名: ヌナキ科	⑧ カナメモチ 	別名: アカメモチ(新芽が赤い)。5〜6月枝先に白い小さな花を密着して付ける。葉は革質のように光沢があり、生垣などのレッドロビンにカナメモチとオオカナメモチの雑種。 科名: バナ科	⑬ コウヨウザン 	常緑で樹高は30m、直径2mに達する。鋭く尖った葉は小枝にらせん状に互生する。4月に開花する。球果は枝先に1〜3個付き新枝形で径は3〜4cm、多数の果鱗からなる。 科名: ヒノキ科
④ イロハモミジ 	別名: タカオカエデ。5〜7つの葉の裂片をロウコホトと数えたことによるが、京都では紅葉の名所高尾に因む名称。新緑、紅葉とも美しい。種子に翼があり、風に乗りて散布される。 科名: ムクロジ科	⑨ キンモクセイ 	中国産のキンモクセイの黄種。雌雄異株だが日本には雄株しかない。挿し木で増える。クローンのため各地で一斉に咲く。空気が汚いと花付きが悪い。 科名: モクセイ科	⑭ コシアブラ 	山地に生える落葉高木で、葉は長い葉柄がある葉状硬葉。小葉は5〜8枚、木から樹液をとり、煮し薬料に使ったのを命。若葉(芽)はタナノキの芽と同じように天ぷらにできる。 科名: ウコギ科
⑤ ウミズザクラ 	花は5月頃で長さ10cmほど白いフラスコ状。材は軽く白く、白く染めたり、彫刻細工、版木、運木の柄などに利用される。黒く熟した葉は「黒葉」に使われる。 科名: バナ科	⑩ クスノキ 	種樹の原料。入道や神社に多い。白いつらね状。材は軽く白く、白く染めたり、彫刻細工、版木、運木の柄などに利用される。黒く熟した葉は「黒葉」に使われる。 科名: クスノキ科	⑮ コナラ 	クスノキと並んで雑木科を代表する。1年成のドングリが特徴。樹皮に縦の割れ目があるのが特徴。新緑やシタケの水ダ木に利用された。秋に黄色から赤褐色に紅葉する。 科名: ブナ科

観察ガイド 1/3

⑯ サカキ 	常緑性の小高木。神に供えられる神木として古くから枝葉を神事に用いられ、社寺の境内によく植えられている。「榊(サカキ)」の由来は「葉をさかす木」などの説がある。 科名: サカキ科	⑳ ソゴ 	別名: フクラシバ。雌雄異株。花期は初夏。秋には赤い実を付ける。別名は黒に染められた葉がソゴ(黒)とよむ。由来は、山地に生える常緑小低木です。庭木として植えられる。 科名: モチノキ科	㉑ ナナミノキ 	雌雄異株。常緑の高木。6月頃に淡紫色の小さな花をさかす秋には赤い実を付ける。果実は赤い。葉は、幹が白く、葉は赤い。由来は、幹が白く、葉は赤い。由来は、幹が白く、葉は赤い。 科名: モチノキ科
㉒ サザンカ 	日本特産種で原種は白色。自生地は四国南部、九州中南部などの南日本。和名は中国でツバキを指す「山花(ツバキ)」がなまった。ツバキとの見分け方は? 科名: ツバキ科	㉓ ダイオウショウ 	マツ属の中では葉の長さが世界一で80〜40cmが3本(三葉松)。マツボクリの長さ:15〜20cm。アカマツ、クロマツの葉は2本、ゴヨウマツは5本。 科名: マツ科	㉔ ネジキ 	幹は薄い灰色の樹皮に覆われ、縦に細く溝は入る。和名の由来は、幹が白く、葉は赤い。由来は、幹が白く、葉は赤い。 科名: ツツジ科
㉕ シイ 	日本にはスダジイとツブラジイがある。5月頃一斉に黄色い花を咲かせブロッコリー状の樹冠を造る。葉裏は翌年に熟する。葉は冬芽が覆った爪を思わせるため。葉は3枚の小葉が枝先端に集まる。若芽は山菜として食用。秋には葉が黄色に紅葉する。 科名: ブナ科	㉖ タカノツメ 	落葉高木で雌雄異株。和名の由来は冬芽が覆った爪を思わせるため。葉は3枚の小葉が枝先端に集まる。若芽は山菜として食用。秋には葉が黄色に紅葉する。 科名: ウコギ科	㉗ ネズミサシ 	雌雄異株。名前が鋭い針葉に由来する。庭木、庭木、生垣として利用。材は緻密で年輪幅が小さく、針葉樹の中では最も重比重(0.54)である。 科名: ヒノキ科
㉘ シヤンシャンボ 	花は5月〜7月に咲き、白色の星状の花を枝先に多数付ける。果実は秋に黒く熟し、和製ブルーベリーと呼ばれる。名前は、ササンボ(小豆)に由来する。葉裏の主脈に突起がある。 科名: ツツジ科	㉙ トウネズミモチ 	明治初期に渡来。ネズミモチに比べ実が丸く、葉の裏面が赤い。葉は3枚の小葉が枝先端に集まる。若芽は山菜として食用。秋には葉が黄色に紅葉する。 科名: モクセイ科	㉚ ノムラカエデ 	葉に紅葉する珍しいモミジ。オオモミジのカエデの葉裏面。葉は大きく7〜8裂する。春は暗黒色、夏には深緑色。葉は赤紫色と赤紫色の葉になる落葉高木。 科名: ムクロジ科
㉛ ソメイヨシノ 	最も広く栽培されている現代のサクラの代表種。江戸時代オオシマザクラの交配種。江戸の染井村で作られた。桜の葉には「密着」がある。気象庁の「サクラ前線」の基準種。 科名: バナ科	㉜ ナツハゼ 	花期は5月頃。夏頃からハゼノキの様に紅葉する。秋には果実が熟し甘酸っぱく食べられる。(和製ブルーベリー)樹皮は縦に裂ける。トラフジミの食糧。 科名: ツツジ科	㉝ ヒイラギ 	雌雄異株。若木の葉は先端がトゲ状になった大型のギザギザの切れ込みが2〜5裂あるが、老木の葉は全縁。花期は11〜12月。葉の陰に小さな白い花を咲かせよい香りを運ぶ。 科名: モクセイ科

観察ガイド 2/3

㉞ ヒサカキ 	雌雄異株。常緑の低木。サカキに似ているが葉に赤ず。花期は3〜4月。白っぽいクリーム状で独特の匂いを出す。葉、仏へらの供えに使われる。関東では神として神棚に供えられる。 科名: サカキ科	㉟ ヒノキ 	和名の「火の木」は、昔この木から火を起こしたから。鱗状の葉裏にY字の白い気孔帯がある。葉の先が尖らない。尖るのはサウワ。各地に植栽され野生化も多い。 科名: ヒノキ科	㊱ モミ 	常緑針葉樹で、約40mの高木になる。材は白く軟らかく、板橋や陶磁器などの入れ物によく使用される。葉は硬く先端が2裂する。マツボクリは10月に熟し、鱗片ははらばらになって落ちる。 科名: ママ科
㊲ ヤブツバキ 	ツバキの原種はヤブツバキとユキツバキに分類される。葉は厚く表面に濃緑色の光沢。葉に黒い、赤味が強い。葉裏は大きく種子に油。食用にもなる。花が落ちるときは丸ごと落ちる。サザンカとの違いは? 科名: ツバキ科	㊳ ヤブツバキ 	常緑高木。別名: ナンジャモド。葉は厚く表面に濃緑色の光沢。葉に黒い、赤味が強い。葉裏は大きく種子に油。食用にもなる。花が落ちるときは丸ごと落ちる。サザンカとの違いは? 科名: ツバキ科	㊴ ヤブツバキ 	常緑高木。別名: ナンジャモド。葉は厚く表面に濃緑色の光沢。葉に黒い、赤味が強い。葉裏は大きく種子に油。食用にもなる。花が落ちるときは丸ごと落ちる。サザンカとの違いは? 科名: ツバキ科

観察ガイド 3/3

水度神社～鴻巣山自然観察会 一口メモ

- ・みんな同じように見えていた鴻巣山の木々、色々な特徴があり、説明をしていただきよく解りました。
- ・葉で種類が解かることを知った。
- ・秋で地味な木が多い中、各々の特徴を知り良く分かった。
- ・色々な木の名前を教えていただいて楽しく勉強できました。ありがとう。
- ・家が近くてよく散歩に来ますが何も気が付いていませんでした。色々教えてもらったので、これからは観察しながらよく見ます。
- ・楽しい一時をすごしことができました。また参加したいと思います。
- ・いつも散歩するコースであるが、新な発見ができた。詳しい説明に感謝である。
- ・身近なところにふだん気付かないほどの植物たちがいることを学ばせていただきました。有難うございました。
- ・普段なにげなく歩いていた道に色々な植物が生えていることを改めて知りました。丁寧な説明、心新にしました。
- ・木の種類、名前を多く学べた。資料も今後役立たせたい。
- ・案内の先生を含め、4人の少数でとても細かいところまで説明していただき、大変有意義な講座でした。
- ・森の木々の詳細を教えて頂きながら歩く楽しさを知りました。ありがとう。
- ・水谷様へ、詳しく教えて頂きありがとうございます。
- ・大変良かった。良くわかった。
- ・説明が大変良かった。
- ・植物の目のつけどころをおそわりました。
- ・この散歩道のさくら見台の下のところに住んでいます。知らないことばかりで、また山に入る時に役に立ちます。
- ・5班 とても分かりやすく楽しかったです。
- ・5班 木にも色々個性があるんですね。
- ・少数のグループで丁寧な説明ありがとうございました。
- ・自然のすばらしさが改めてよくわかりました。
- ・いつも通っているけど、案内がよかった。
- ・何度も散策している鴻巣山の樹木を一本一本説明していただき、次回は友人と一緒に今日教えていただいたことを思い出して来ます。
- ・新しい発見があり、今度から歩くとき友達に説明しながら歩きたいです。楽しかった。ありがとうございました。
- ・色々と親切に説明していただき楽しいひとときでした。ありがとうございました。
- ・大変良かった。
- ・詳しく丁寧に説明していただきありがとうございました。今後の散歩に役立ちます。
- ・大変わかりやすい説明でした。
- ・良い勉強になりました。これから木の表情も見るようにします。
- ・水度神社境内の多くの植物を観察した。知らない植物もいくつか理解した。
- ・モミジのヘリコプターの付き方（上か下か）、サカキ、ネジキ、ソヨゴ よくわかりました。おもしろかったです。また参加したい。
- ・同じような「葉の形」としか見えなかったのが、少し違いが分かるようになりました。ヤブニツケイがクスノキの仲間と同じような匂いがすることが発見の一つでした。
- ・今日はありがとう。少しは頭に残ったようです。
- ・鴻巣山の樹木の三種類がわかった。ダイオウショウ、サカキ、アカマツ
- ・藤田様、普段見ているのですが、木の名前を知らないことがわかりました。非常にためになりました。またの機会をお願いします。
- ・身近にあるのに日頃はじっくり見る機会がなく、今日詳しく杉本先生にお話し頂きありがたく思っています。少しずつでも知識にしてゆきたいです。ありがとうございました。